

(安倍外交と強さと弱さ) 『宝島』 通巻653号-2006.11.25

強さと弱さ

安倍外交の

なぜ安倍晋三は訪中できたのか？



9月26日に第90代の首相に就任してからわずか12日後の10月8日、安倍晋三首相が訪中、翌9日には訪韓を果たした。安倍氏はアジア外交強硬路線ゆえ、関係改善を危ぶむ声もあったが、自らの行動で制したカタチだ。この訪中・訪韓を形だけでなく、中身でも評価するという、中国研究の第一人者・国際教養大学理事長の中嶋嶺雄氏が語る！

撮影/伊藤幹



安倍首相の信頼厚い谷内外務事務次官

従来、対中関係を一手に仕切ってきた外務省チャイナスクールによる、事前の摺り合わせを断固拒否したからである。これま

中国の出方を読みきったしたたかな安倍首相

今回の訪中・訪韓は、タカ派と言われる安倍氏が、電光石火の早業で成し遂げたことで、安倍批判の機先を制したという点でも非常に意味があったが、それ以上に、「安倍氏らしさ」を打ち出した中身を高く評価したい。どんな点が安倍氏らしかったかといえば、靖国参拜問題や歴史認識をはじめとする懸念されていた事項で、中国側に言質を与えなかった点である。

日中国交正常化以来、これまで日本が中国に対してとってきた態度は、こちらが出向き、ひざまずくという、まさに朝貢外交ともいえるべきスタイルだった。日中国交正常化を成し遂げた田中角栄首相は、当時、毛沢東主席の寝室の隣の居室にまで出向いている。

だが安倍氏は、あくまでも自分の路線を打ち出し、貫いた。なぜそれができたのか。それは

もし新首相が親中派だったら こんなに早い訪中は不可能だった

中国との関係においては、事前の摺り合わせは必須であり、それこそがチャイナスクールの仕事であった。そしてそれができる、ということでもまたチャイナスクールの省内発言力も強くなっていたのだ。だがこの訪中の成功は、外務省内部で、チャイナスクールの地盤沈下が始まっていることを印象づけた。

いま、外交面で首相を支えるのは、麻生太郎外相と谷内正太郎外務事務次官である。新組閣でこれに小池百合子氏が国家安全保障問題担当として首相補佐官に加わったが、私はこのチーム、特に安倍氏、麻生氏、谷内氏が考えを共有し、小泉時代から非常に固い信頼関係で結ばれたことが有効だったと見ている。



中嶋嶺雄 (なかしま みねお)

1936年松本市生まれ。東京外国語大学学長後、現在、国際教養大学理事長・学長。10月10日、「教育再生会議」のメンバーにも選ばれた。著書に『北京烈烈—文化大革命とは何であったか』（講談社学術文庫）、「歴史の嘘を見破る—日中近現代史の争点35」（文藝春秋）、「李登輝実録—台湾民主化への蔣経国との対話」（産経新聞社）ほか多数。



写真右・すさまじい格差をみせつける北京の胡同。写真下・「上海閥」に属する、汚職で更迭された陳良宇(右)と黄菊(左)。写真下・上海の汚れきった河川。

団派か、上海閥か 共産党内のきしみ

安倍氏は首相就任前はかなり早くから対中・対韓関係について、対策を考えていたようだ。

今回の電撃訪問で、「安倍はしたたかで、一筋縄ではいかない相手」と、中国、韓国に認識させ、さらに「関係が必ずしも良好ではないという土壌でも、いつでも会える状況は作っておきたい」とする安倍氏の目論見を実現させたという点からも、結果は大成功だといえよう。

ただしこの成功を本当に演出したのは、小泉前首相だということも忘れてはならない。中国や韓国に妥協しなかった小泉氏の一貫した態度が安倍氏にフリーハンドを与え、中国・韓国に譲歩させたのは明らかだからだ。

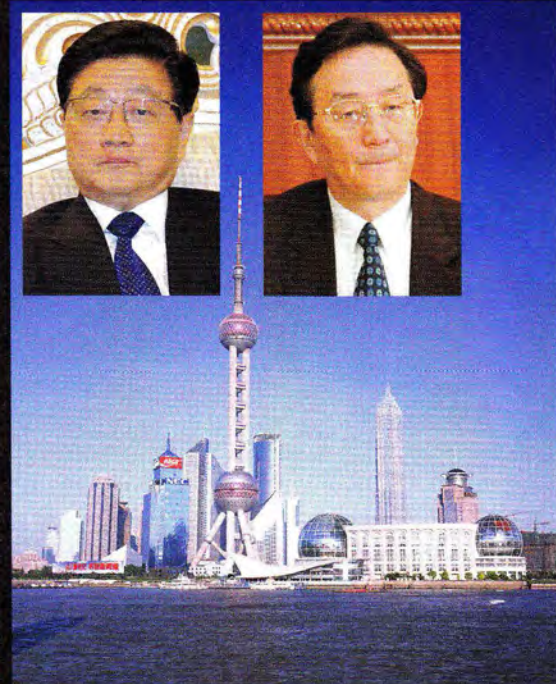


そして、今回の訪中・訪韓の成功の理由の半分が、中国側の事情によるということも忘れてはならない事実だ。ある意味では、安倍氏は非常に運に恵まれていた、ともいえる。

中国は常にそうであるが、現在も中国共産党内部で激烈な権力闘争が展開されている。それは、「団派」（現総書記の胡錦濤派）と「上海閥」（前総書記の江沢民派）の闘いでもある。

(欄外注参照)

それを如実に示すのが、この9月末、上海市共産党委員会書記だった陳良宇氏が解任され、また江沢民派の黄菊副首相の妻までもが関与していると捜査されている汚職事件だ。上海市では20人以上が逮捕されたという。陳氏の党書記という職は、上海市長よりも地位が高いため、い



よいよ胡錦濤が「上海閥」を一掃しようとしているのか、と注目が集まった。

だが安倍氏が訪中した10月8日に開幕した、中国共産党の重要会議である第16期中央委員会第6回全体会議（6中全会）では、陳氏を解任したものの、中央政治局委員というポストから追放することまではできなかった。

上海閥と団派……いずれも中国共産党内の派閥で、「上海閥」は、上海出身の江沢民前総書記を中心にした、江氏に近い共産党指導部内グループのこと。党最高幹部の中央政治局常務委員のうち、呉邦国（全国人民代表大会常務委員長）、曾慶紅（国家副主席）、黄菊（副総理）、賈慶林（全国政治協商会議主席）、李長春（政治局常務委員）、陳至立（國務委員）など、9人中6人が「上海閥」であった。対する「団派」は、現総書記である胡錦濤ら、中国共産党の若手エリート組織、「中国共産党青年団（共青团）」出身者による派閥。中国政策においても、「経済成長」—「辺倒だった江沢民ら」と「和諧社会（格差のない調和した社会）」を標榜する胡錦濤らは対立している。

た。「上海閥」もまだ力を持っているというのだ。

こうした状況だからこそ、「反日」を重要な対外戦略にしてきた江沢民に対抗する胡錦濤は、安倍氏を歓迎して日中友好を見せつけたのだ。安倍氏を歓迎することで、江沢民時代とは明らかに異なる路線を示すことができ、また日本の新しい首相が最初の訪問国として、中国を選ん

だということだ、その首長たる自分の力を誇示したのである。

異例なことに、「人民日報」は訪中当日に安倍首相の経歴を掲載し、翌日は日中首脳会談の成功を大きく報じた。中国は安倍訪中を待っていたのである。

**中国のすさまじい現実
日本なくして解決なし**
そして、頑なに「靖国参拝」

08年、台湾が「中国」を捨てるとき 北朝鮮以上の危機が起こる

現在の東アジアの情勢を見るにつけ、北朝鮮問題以上に重要なのが「台湾問題」だ。

民主主義のもと、2000年に民主進歩党（民進党）が政権をとって以降、陳水扁が総統に選ばれていたが、現在中国上海のように、総統の親族から汚職問題が噴出し、政権をゆるがしかねない事態となっている。今年6月、野党から罷免要求が提出されたこともあり、陳氏の立場は危うい。そしてこのまま任期満了まで続投できた場合、総統選挙は08年3月に行われることになる。

ここが一つのポイントだ。

民主主義国家を実現した台湾の懸念な国民はよもや選ばないと思うが、中国国民党が選ばれれば、第三次国共合作ということも起こりえるし、また民進党が選ばれて、中華民国という名前に固執せず独立を選べば、中国はすかさず反国家分裂法をたてに軍事行動を起こすだろう。たちどころに北朝鮮危機以上の緊張が台湾海峡を中心に発生することになる。

これは絵空事ではない、北朝鮮の崩壊よりも可能性は高い話だ。08年は要注意だ。

江沢民の大きすぎる負の遺産が 08年以降の中国を脅かす

で突っ張ってばかりいられない深刻な事情も胡政権にはある。

中国国内に噴出する社会問題だ。私は2年に1度は、肩書きのない1研究者として、中国国内に定点観測に出かけている。今年の8月も北京と上海で行った。

昨今、日本のマスコミは中国の経済成長を喧伝し、経済大国になったかのような報道を繰り返しているが、結論からいえば、私が以前から感じていた中国像

を改める必要は全くなかった。

高層ビルは林立しているが、ちよつとその脇に入っていけば、不潔と貧困がすぐに見えてくる。

例えば、北京の天安門広場の南に位置する前門大街という昔ながらの街は、北京オリンピックに備えて全面改修中だが、その裏通りや密集した民家を縫うように走る胡同（路地）へ足を一歩踏み入れれば、見た瞬間に中国社会の実像を理解できる。いくらGDPが増えて世界4位になつたとはいえ、1人あたりに換算すれば1500ドル程度で世界110位、日本の約25分の1に過ぎない。中国はまだまだ貧しい国なのだ。

しかも環境破壊がすさまじい。上海に行ったなら、南匯県あたりの郊外の農村に行ってみてほしい。川という川は悪臭と有害物で満ち満ちている。

こうした状況でありながら、無理な開発がまだ続いている。例えば09年に完成予定の長江にできる三峡ダムと、上海から重慶を結ぶスーパーハイウェイである。三峡ダム建設で、長江はもはやゴミと泥の川と化した。

スーパーハイウェイは総延長で4800kmにもなるもので、李白の詩にもでてくる風光明媚な白帝城などの渓谷の岩盤を爆破しながら突貫工事で作っている。今、中国で起こっている、失業問題、農村問題、食糧問題、環境問題、エネルギー問題、それに拝金主義（向金看）と汚職問題、これらは江沢民が行った経済成長至上主義による負の遺産で、国内の不満も高まっている。

胡錦濤がこれらを抑え込むためには、08年の北京オリンピック、09年の三峡ダムとスーパーハイウェイ、10年の上海万博という国威を発揚する大イベントを次々に成功させる以外にない。そしてそれには、地理的、金銭的、技術的と3つの面で、日本の協力なくしてはありえない。

だからこそ「靖国」を不問に付して、外交は次のステージに入ったともいえる。

安倍氏の主張は一貫しており、A級戦犯や東京裁判など、肝心の部分がブレていないことは心強い。現在の安倍外交の体質はまだ十分に見えてこない。帰国後、村山談話*2を受け継ぐ旨の発言をしてトーンダウンしたように見えるが、私は安倍氏の本領からして、心配の必要はないと思っっている。



*2村山談話……1995年8月15日の戦後50周年記念式典で、当時の村山富市首相が閣議決定に基づき、日本が戦中・戦前に行った「侵略」や「植民地支配」について公式に謝罪した談話。

急騰直前!M&Aで狙われる「割安株」検証

Business Wonderland

緊急提言 日本が未来企業を生み出せないワケとは?

宝島

「日本経済の大弱点」 野口悠紀雄

no.653
2006
December
特別定価
630円

12

Monthly Topic

ハイテク株
高騰30銘柄
予想つき

シェア1位&オンリーワンだから日本は強い!

世界No.1 パソコン 先進技術79

- 辺真一「北朝鮮」最後の決戦
- 佐藤優「ロシア外交」外務省の罪
- 大前研一「限界突破」の発想法
- 深谷圭介「立命館メソッド」
- 宇野康秀「コンテンツ事業」展望

初の訪中訪韓、教育再生問題など

「安倍内閣」 実力分析

- ◇中嶋嶺雄「アジア外交」採点簿
- ◇八木秀次「教育再生」の中味
- ◇浅川博忠「本当の敵は参院青木」
- ◇2大党首「安倍vs小沢」徹底比較

徹底取材

- 年末「ヒット商品」予測103
- 「小泉チルドレン」はどこへ行く
- 飲酒「検挙率」1位はどここの県?
- 超格差社会「米国」は明日の日本
- 進化する松下電器の「ものづくり」

グラビア企画

味の素、バンダイなど一流企業の美人秘書に密着
「社長秘書」というお仕事

TOPインタビュー

「無添加」をキーワードに健康市場を開拓
(株)ファンケル代表取締役社長執行役員
藤原謙次氏



キヤノン、エプソン、HP各社の最新機種を
「新型プリンター戦争」秋の陣
キヤノンビクス、新CMキャラクター
長女さくら役 **山田優**

中国関連ファンドが上位を独占!1位のリターン率はなんと約52%!! 最強投資信託ランキング

2006年11月25日発行(毎月1回25日発行) 第34巻第12号定価653円 1974年9月23日第三種郵便物認可